

就任のあいさつ



美郷町教育長
後松 順之助

このたび高橋福雄前教育長の後を受け、美郷町教育長に就任させていただきました。

ご案内のように秋田県では、県の未来は「人づくり」にかかっているとの認識から「教育の充実」「子育て支援」を県の最重要課題にあげています。このことはそのまま本町にもいえることであり、その責任の重さをひしひしと感じているところです。

責任の重さに押しつぶされそうになりながらも、奥羽山脈に抱かれた我が町美郷町のだれもが広やかな心をもち、生涯にわたって自分自身の向上を旨とするような教育風土の醸成を願っています。

子どもたちにはみなぎる力を、地域の皆様には「おらが生まれ在所は美郷町」と誇りをもっていただけますよう、職員一丸となり「チーム美郷」の意気込みで日々の仕事に取り組んで参ります。

なにとぞご支援・ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

議会臨時会

平成19年第1回町議会臨時会が1月18日に開かれました。今回の臨時会では、温泉揚湯量が減少してきた「湯とびあ雁の里温泉」の安定した揚湯量確保のため、新たな源泉の掘削に係る工事請負契約について審議が行われ、原案のとおり可決されました。

可決された議案

- 工事請負契約の締結について
湯とびあ雁の里温泉源泉掘削工事
指名業者八社による競争入札の結果、株式会社日さく秋田支店(秋田市山王)と五千四百四十五万円で契約を締結することが可決されました。

人権擁護委員が再任されました



小川順道さん

1月1日付けで、小川順道さん(六郷)が法務大臣から人権擁護委員の委嘱を受けました。

いじめや家庭内でのものめごと、近隣のトラブルなど身近なことで困っていることがありますたら、お気軽にご相談ください。

最優秀賞は

「小学生の部」

吉水麻衣さん(千屋小6年)

「高校生の部」

森元美樹さん(六郷高2年)

第28回読書感想文コンクール

ことしで28回目となる読書感想文コンクール(学友館主催)の審査結果が、このほど発表されました。

ことしは、小学生の部、中学生の部、高校生の部に、7校から合わせて22点の応募があり、審査の結果、小学生の部の最優秀賞に吉水麻衣さん(千屋小6年)、高校生の部の最優秀賞に森元美樹さん(六郷高校2年)がそれぞれ選ばれました。

なお、入賞者の全作品中を収録した「読書感想文集第28集」が発行され、町内の各学校などに配布されたほか、町内の公民館と学友館で閲覧することができます。



入賞者(敬称略)

【小学生の部】

最優秀賞

吉水 麻衣(千屋小6年)

優秀賞

柴田 彩菜(仙南東小2年)

藤本 麻由(六郷小3年)

須藤 絢郁(六郷小5年)

細井 望夢(千屋小5年)

泉谷 尚哉(千屋小6年)

細井 毬愛(千屋小6年)

佳作

泉谷 優(仙南西小2年)

高橋 俊樹(六郷小3年)

高橋 享輔(六郷東根小3年)

田口 竜也(六郷小5年)

高橋 悠(六郷小5年)

田村 優美(千屋小5年)

藤田 寛大(仙南東小5年)

田口 純也(六郷小6年)

森川 徹(千屋小6年)

【中学生の部】

優秀賞

佐々木美佳(六郷中1年)

佳作

高橋 陽南(六郷中1年)

【高校生の部】

最優秀賞

森元 美樹(六郷高2年)

優秀賞

古谷祐香子(六郷高1年)

佳作

鈴木ひろみ(六郷高1年)

佐々木 恵(六郷高1年)

あなたの「声」
を町長に直接
伝えませんか

2月のふれあい談話室

期 日	時 間	場 所
2月8日(木)	午後5時～ 午後6時30分	千畑庁舎 (1階応接室)

町長が町民の皆さんから、町政へのご意見やご要望を直接お伺いします。

また、面会は随時受け付けますので、事前に町長公室秘書広報班にご連絡ください。

問
い
合
わせ

役場(六郷庁舎)町長公室 秘書広報班 ☎0187-84-4900(内線1226)

町長が週1日
役場千畑庁舎
と仙南庁舎で
執務

移動町長室

曜 日	時 間	場 所
毎週火曜日	午前9時～	仙南庁舎
毎週木曜日	午後3時	千畑庁舎

町長が毎週1日、役場千畑庁舎と仙南庁舎で執務していますので、ご用のある方はお立ち寄りください。

なお、会議への出席などにより、不在の場合や実施できない場合があります。

風

美郷町長 松田知己



「価値観」

先日、県町村会主催で県との意見交換の会がありました。時間に制約があったため、会議終了後、その不足を補うためある県幹部を訪ね、雑談をしてみました。話は、変化の激しい財政環境についてです。

皆さんもご存知のとおり、大多数の自治体は基本的な取り組みに必要な経費の不足を、地方交付税として国から交付を受けております。美郷町では、今年度約五十億円が交付されることになっていま

す。この金額は、これまでは道路延長や公園面積、高齢者人口や農家数など、さまざまな要素の組み合わせで決定されてきました。しかし来年度からは、三位一体改革に沿う方向に改定され、自治体面積と人口での算定割合が高まるようです。これでは面積が小さく人口の少ない所、

例えば美郷町のような市町村は不利になります。そのために補正もすることですが、減額は避けられない見通しです。また、「やる気のある」自治体には、別枠での追加配分も検討しているのとことです。

県幹部の方との雑談は、この「自治体のやる気」を何で判断するのかでした。共通した意見は、派手なスタンド・プールのな取り組みに偏って、やる気を判断しないではほしいと言うことでした。

国などと違い、市町村は住民生活に直結しております。従って、基本的な取り組みの堅実な展開が求められます。変化にも合わせながら、ミスなくしっかりと基本部分を推進する姿勢が、当たり前ですが市町村のやる気の端緒です。そして次に独自施策です。少ない財源をいかに工夫して取り組みの幅を出すが意欲だろうと思います。つまり、やる気の本質をしっかりとさせた価値観で判断してもらいたいということです。

こうした中、町では来年度の予算案編成が大詰めを迎えております。堅実性に加えて工夫も注入しながら、痩せる思いで調整にがんばっておりますが、なかなか支出予算は瘦せません。「やる気」配分も獲得するように気合いでがんばりますが、皆さんからも望む美郷を創るとい価値観で、健康的に痩せることへのご理解をよろしく願います。

経験者はお分かりのとおり、ダイエツトってのは難しいもんです。

写
真

1月15日に六郷庁舎で行われた、県主催の「子育て支援と教育拡充に関する市町村との意見交換会」で、県の担当職員と意見交換を行う松田町長。